# かつらお ABUKUMA ROMANTIC ROAD

あぶくま ABUKUMA ROMANTIC ROAD ロマンチック街道

てしまう裏側は荒々しく、一心不乱に石工がノミをふるった見事な石垣は、今もその姿を残しています。

発掘では48棟あったと伝えられる蔵の基礎石や、近江八景庭園跡の全体が掘り出されていて、現在は葛尾大尽屋敷跡公園となっています。

震災前、この葛尾大尽をテーマに、人形劇が企画され、村民のみなさんによって上演されていました。代々の葛尾大尽と京都からやってきたお嫁さんたち、そして彼らの心をつかんでいく村の快活な娘たち。

信州の地からみどり豊かな村にやってきた大尽さまが、葛尾村で暮らす様子と歴史が、人形に託され演じられています。

葛尾大尽が開いた村の暮らしは、少しずつ姿形を変えながら、この地に根づいておりました。これまでも、そしてこれからも。

Vol.10
2015年3月発行

あぶロマ街道風物史

# 葛尾大尽の夢の跡

あぶロマは、国道399号線でつながる5市町村、飯舘村、浪江町津島、葛尾村、田村市都路、川内村の元気を発信する協議会です。震災によって失われつつあるふるさとの味を残す活動を続けています。大尽屋敷は、葛尾村の昔日の夢物語を垣間見せてくれます。

事務局：〒979-1201福島県双葉郡川内村大字上川内字十八窪五〇八の2
E-Mail：info@abukuma-r.jp　URL：http://abukuma-r.jp/
あぶくまロマンチック街道構想推進協議会

# 400年前の村の故郷

葛尾には、たくさんの松本さんがいます。村の人の半分くらいが松本さんといわれるほど、ここには松本さんが多くいらっしゃいます。

その、葛尾村の松本姓のルーツといわれているのが、葛尾大尽屋敷です。この屋敷は、葛尾大尽と呼ばれた松本三九郎なる人物が開いたものとされています。三九郎は生糸や製鉄で富を築き、これが葛尾大尽と呼ばれるようになった由縁です。

この松本三九郎は、実は松本好倉なる人物であったのではないかという史実があり、そしてこの松本好倉は、信州、長野県坂城町にある葛尾城主だったという松本勘ヶ由介の孫でありました。

葛尾という村名も、葛尾に多い松本姓も、信州からこの地にやってきた人が多いからかもしれません。この松本三九郎、葛尾大尽は、その後10代にわたって葛尾で栄華を極めたといいます。10代の葛尾大尽は、いずれも松本三九郎を名乗り、江戸時代から明治時代にかけて、村で繁栄を続けたのでした。

最盛期は江戸時代中頃で、お隣の三春藩を始め、相馬藩や棚倉藩に大金を献上し、また高額の貸し付けをおこない、藩財政にも一部介入し、山林や酒造米、塩などの独占権を得ていたともいわれています。

残念ながら、屋敷建物は明治初期の二度にわたって火災で焼失し、製鉄業の不振とともに栄華も過去の夢となっていくのですが、大尽三九郎の構築した庭園は、それはそれは見事なものであったというのが、近年の発掘調査で明らかになってきました。

表面は滑らかに美しく、隠れ

葛尾の圧倒的多数を占める松本さん
そのご先祖さまのお屋敷
葛尾村のルーツを探る空間でもあります